令和5年度 イチオシ!の ICT 活用方法

教育委員会

多古町教育委員会

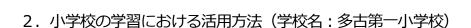
1. 小学校の学習における活用方法(学校名: 久賀小学校)

「デジタルフラッシュカード(単語カード)」

(4年: 社会科)

メリット

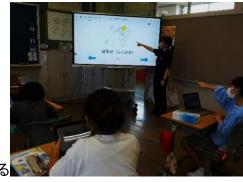
- 既存のフラッシュカードを校内で 共有・活用できる
- ⇒フラッシュカード作成の時間を削減でき、 教材研究の時間を確保できる。
- 毎時間のルーティンとして取り入れられる⇒アイスブレイクとして子供たちが楽しく取り組める
- ・児童用アカウントの活用
 - ⇒児童が家庭での自主学習に利用でき、個別最適な学習が可能となる。



「ゲーム・スマホのトラブル対策出前講座」(大手ゲームメーカー)

(6年:特別の教科 道徳/情報モラル)

- ・小学生:トラブルに巻き込まれないための 知識の取得
 - ⇒長時間プレイや課金トラブルを防ぐための 知識が学べる。
- ・教職員:時間や費用を掛けずに勉強会を実施
 - ⇒完全無料で、ゲームメーカーからトラブル事例や機能制限についてオンラインで学べる。
- ・保護者:子どものゲームに関する理解
 - ⇒約束づくりのポイントや利用時間の考え方が学べる。





3. 小学校の学習における活用方法(学校名:多古第一小学校)

「夏休みの科学工夫作品の発表」(4年:総合的な学習の時間)

メリット

- ・子どもが ICT 機器(web カメラ、電子黒板) を使って発表することができる
 - ⇒発表意欲や視聴している児童の作品への 興味や関心が高まる。
 - ⇒発表者一人一人が主役で、自分の作品を 自分の言葉で表現することができる。
 - ⇒質疑応答を行うことで、対話的な活動につながる。
 - ⇒小さな部分を電子黒板に拡大表示することで、作品のアピールポイント、工夫や仕組み、結果などを共有することができ、新しい知識を得たり、生活に活かしたりすることができる。



4. 小学校の学習における活用方法(学校名:多古第一小学校)

「タブレットと学習支援ソフトを使った情報の共有」

(3年: 算数科/大きい数のかけ算のしかたを考えよう)

- ・タブレットを使い、子どもの考えを図や式、言葉を使って表現できるようになる
 - ⇒タイピングやタブレットのソフトや アプリケーションの使用方法の取得や 表現方法・技術の向上が見込める。
- ・広げ深める場面で、学習支援ソフトを使い思考の共有
 - ⇒新しい考えや、他の考え方に気付いたり、自分で考えることに時間を要する児童の支援にも つながる
- ・全体表示と個別表示を電子黒板で使い分ける
 - ⇒全体の進捗を把握でき、参考になる考え方や ヒント、模範解答など、即時に電子黒板に 拡大表示して教員が解説・説明したり児童の 主体的な発表を促すことができる。



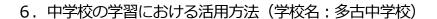
5. 小学校の学習における活用方法(学校名:中村小学校)

「生活科の観察画像の保存と共有」

(1年: 生活科)

メリット

- ・電子黒板で共有すると画像を比べやすい。
 - ⇒ (よりよい) 撮影の視点を増やすことができる。
 - ⇒植物の成長の様子の違いを比較することができる。
- 気付きの類似や差異を確認しやすい。
 - ⇒共通の気付きがあることで自信がつく。
 - ⇒友達の発見を見て、新たな学びや意欲につなげることができる。
- ・正確な記録を残しやすい。
 - ⇒タブレット端末に保存し、時系列で成長記録を見返すことができる。



「単語カードのように ICT 機器を活用しよう。」(3年:外国語科)

重要な語句を覚えようとした場合、単語カードに重要語句を書き覚えさせる。ICT を活用した場合、学習支援ソフトを活用し、教員が作った単語帳で暗記に役立てた。

- ・自主学習に取り組めることで、学習意欲が 高まるだけでなく、個別最適な学習が可能 となる。
- ・3年生になると休み時間も熱心に 学習に取り組む生徒もいた。





7. 中学校の学習における活用方法(学校名: 多古中学校)

「自分の動きを確認しよう。」(保健体育)

自分の動き(フォーム)を撮影し、後に見返して改善することに活用した。また、陸 上競技種目でのタイム計測にも活用し、正確なタイム計測を行った。

- ・生徒が自由にタブレットを活用する事で、 学習意欲も高まった。
- ・ICT 機器を活用することを目的とするのではなく 教員、生徒ともにどのような力が身につくのかを 理解して学習に取り組むことができる。

